

平成31年度 第1回
北海道地方独立行政法人評価委員会公立大学部会 議事録

1 開催日時

平成31年4月18日(木) 14時20分から14時50分まで

2 開催場所

札幌医科大学基礎医学研究棟 5階会議室

3 出席者

【出席委員】

庄司 正史 委員(公認会計士)
鈴木 将史 委員長(国立大学法人 小樽商科大学 教育担当副学長)
苫米地 司 委員(学校法人北海道科学大学 理事長)
成田 吉明 委員(医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 院長)
古谷 雅代 委員(株式会社ハルソフト 代表取締役会長)

【欠席委員】

なし

4 配付資料

資料 1 - 1 北海道公立大学法人札幌医科大学中期目標期間評価実施要領(案)
資料 1 - 2 中期目標期間評価視点(案)
資料 1 - 3 中期目標期間(平成25年度～平成30年度)及び平成30年度業務実績報告書様式(案)
参考資料 北海道地方独立行政法人評価基本方針

5 議題

- (1) 公立大学部会長の選任について
- (2) 公立大学部会長代理の指名について
- (3) 北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間評価実施要領について
- (4) 札幌医科大学塚本理事長挨拶

6 議事内容

- (1) 開会
- (2) 本日の進行説明

議題(1) 部会長の選任

(部会長の選任については、「北海道地方独立行政法人評価委員会条例第7条第3項」に基づき、部会委員の互選により、選任する)

- ・出席委員から立候補及び推薦なし。
- ・事務局から提案することについて出席委員に諮る。
- ・出席委員からは「異議なし」。
- ・事務局から、評価委員会の副委員長に就任した鈴木委員を部会長に推薦。
- ・出席委員の異議なく、鈴木委員を部会長に選任。

議題(2) 部会長代理の指名

(部会長代理の指名は、評価委員会条例第7条第5項において、部会長が指名する)

- ・委員長が、苫米地委員を推薦。
- ・出席委員の異議なく、苫米地委員を部会長代理に選任。

議題(3) 北海道公立大学法人札幌医科大学中期目標期間評価実施要領について

- ・北海道公立大学法人札幌医科大学中期目標期間評価実施要領について、事務局から資料1-1、資料1-2、資料1-3に基づき説明。
- ・出席委員から次のとおり質問あり。

成田委員 : 「今年度は、中期目標期間の最後に当たるので、平成30年度と6年間の両方を評価しなければならないが、昨年度は、平成29年度分の実績報告だけだったのか。」

事務局 : 「そのとおりである。」

成田委員 : 「では昨年度よりも、ボリュームが大きいということか。」

事務局 : 「そのとおりである。」

鈴木部会長 : 「2倍までは、ならないと考える。」

成田委員 : 「了解した。」

鈴木部会長 : 「法人は、中期目標と中期計画を自己評価するということであるが、中期目標の評価は、中期計画の自己評価で決まるところがあるのか。」

事務局 : 「基本的には、中期計画自体が中期目標を達成するための数値ということなので、中期計画の達成状況イコール中期目標の達成率と言い換えることは、可能である。ただし、中期目標は幅が非常に広いので、全体を網羅しているかどうかは別な議論になるが、その6年間で計画に基づいてやるべきことをやったということであれば、それは中期目標の評価ということになるのではないかと考える。」

鈴木部会長 : 「中期目標の判断基準のところの目安を見れば、中期計画のⅣ以上がいくつ、Ⅲ以上Ⅳ以上概ね9割などそういう記述になっているので、ほぼ機械的に中期目標の自己点検は、できるということは理解した。それに対し、評価委員会も中期計画の評価をするのか。」

事務局 : 「そのとおりである。」

鈴木部会長 : 「ここに載っている表は、中期目標の評価基準、判断基準が載っているということだが、中期計画にもこのような表があるのか。」

事務局 : 「資料1-1の1ページに記載の表に基づき法人が中期計画に関して5段

階評価をするが、それが妥当かどうかを同じ表で評価委員会も5段階評価をすることとなる。」

鈴木部会長：「了解した。」

成田委員：「一般的には、毎年度実績どおりに上手く行ったかどうか評価し、それがあって、はじめて6年間分を評価するということだが平成30年度と中期計画の分が混合していて、宜しくないのではないかと思う。平成30年度の実績をきちんと評価して、その上で中期計画6年分の評価が次の話としてあると普通に考えると思うが、一体化されていて、評価し辛い感じがする。」

事務局：「平成30年度分は単年度評価として実施し、それを踏まえて6年度分の評価を総括するという形で考えている。」

成田委員：「あくまでそういう形で考えていいのか。」

事務局：「委員が心配される様に、単年度ごとの評価は、中期計画・中期目標に向けて最終的な到達点を年度ごとに分けているので、年度ごとの達成状況をだけもっては、中期計画全体ひいては中期目標全体の評価に繋がらない。平成30年度までやって、平成25年度から平成30年度までの総括をして、中期計画に対しては、こういったアプローチが出来ているか評価ができる流れになる。実績報告書としては、統一化の観点でこういう様式を使っているが、評価調書については、年度計画に関する評価結果と中期目標期間に関する結果をそれぞれ評価することから、評価案を作る際には、2つに分かれることになる。」

苫米地委員：「事前に資料をいただき、何度も読まないで理解ができない部分がある。例えば区分では、数値や小文字と大文字、事務的にはこういう区分だが、委員会での審議を行うためのフローを示していただくと、誤解のないようにできるのではないか。」

事務局：「よりわかりやすい評価のためのフロー図を用意したい。」

- 他に委員からの意見、質問等なし。

閉会